

# 80年代を闘う 第3回 労組活動家懇談会

## 53 労組・団体より320名が結集し大成功



基調を提起する動労千葉・吉岡組織部長。(2月7日、船橋労働会館)

# 日刊 動労千葉

82.2.9  
No. 964  
国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五ノ六(公衆)四三二二七二〇七

### 「動労千葉の運動の全国的な拡大を実感した。」(懇談会に参加して 千葉転支部A生)

軍事大国化・改憲にむけ、労働運動解体の攻撃が激化している。労働運動が今、労働「統一」攻撃に右往左往し、「国鉄」「国鉄労働者」は、内外からの集中した攻撃にさらされている。三五体制(民託化)第二臨調、内達一号改悪、「ヤミ・カラ超金」連日の新聞キャンペーンのすさまじい攻撃をみよ。だが他労組は、この波状攻撃の重圧に押しつぶされ、とめどなく屈服を深めている。とりわけ動労「本部」革マルは「国鉄問題に関する考え方」なる「勇気ある提言」を行ない「二ノ三割働かざる高めよう」と三五体制の推進役という最大の裏切り者になりさがっている。このままでは職場のすみずみまで合理化が徹底し、既得権の一切が奪われ、戦争に協力する労働組合に変質させられてしまふであろう。

今、すべての労働者が事態の推移を固唾を呑んで見守っている。

「二・七、八〇年代を闘う第三回労組活動家懇談会」に集まった全通・国労・電通・自治労・教労・東大演習林そして何より動労の仲間達が、民間の政労協・NHK・全造船・電機・石油・食品・私鉄・出版・山谷のすべての労働者が等しく熱烈に訴えたことは何か。

それは「動労千葉に続け」である。「動労千葉の運動を、三里塚・反合を闘える労働組合を、自らの職場につくり出し、軍事大国化・改憲攻撃と対決し、二期着工阻止に決起しよう」ということである。

それは来賓のジェット闘争支援共闘・浅田世話人と、労働運動研究家高島喜久男氏のことばにもはっきりと示されている。

浅田氏は、「動労千葉の闘いも、三里塚の闘いも一地方の闘いではなく全国的闘いだ。動労千葉の運動を全国的な運動として拡大し、強固なものにしなければならぬ」と述べられ、高島氏は、「動労千葉は全国の労働運動の指導者だ。動労千葉を中心にして全国の鉄道を止めるだけの力を、どうしたらもつことができるかを考え、八〇年代を闘わねばならない」と話された。

軍事大国化・改憲にむけた敵の攻撃は、もう一つの突破口として二期着工に総力をあげ、反対同盟農民に対する話し合い路線による切り崩し攻撃として激化している。プル新を利用した悪質キャンペーンは、三里塚を闘う反対同盟と動労千葉・支援勢力を分断する攻撃である。だが、こうした暗雲はかけつけた北原事務局長と敷地内・市東さんの決意表明によってすっかり取りはらわれた。北原事務局長は、「対話路線は敗北の路線であ

り許せない。一人や二人の脱落があっても驚かないし、我々の力は弱まっていない。むしろ現地は活性化している。三・二八全国に決起を訴え、断固闘っていく決意である。」と述べた。さらに市東東市さんから、「諸君とは最後まで闘う。権力万能神話を三里塚で破りたい。みなさんとの血盟の絆をうち固め、必ず廃港にもちこみます。」との決意が述べられ、全参加者は会場割れんばかりの拍手でこたえた。

沖繩の代表も、全金本山の仲間も三里塚の勝利なくして自分達の闘いの勝利もないと訴えた。十三時三十分開始された集会は三二〇名が参加し、二十時三十分まで熱気あふれる集会としてかちとられた。

特に、二時間におよぶ吉岡組織部長の基調提起は、私たちがいかなる方針のもとで、いかなる闘いをやるのか鮮明に提起された。

この基調提起と多くの発言を受けて、水野副委員長から「反行革・反合理化を闘い、闘う労働運動解体の攻撃と闘う皆さんの報告を一点集約するならば、それは三里塚闘争であり、三里塚を闘う労働者本隊の全国潮流をつくり出すために、職場生産点で闘いぬこうではないか。三・二八に巨万の労働者を結集させることが右翼労働「統一」粉碎の力となる。八一・三一周年三・六集會に結集し、その力を三・二八に大合流させよう」と的確に確信をもった集約が行われた。この方針のもと、全力で決起しようではないか。



話し合いなる同盟解体攻撃をうち破って、非妥協不退転で闘う、と決意をのべる反対同盟・北原事務局長と敷地内・市東さん。

懇談会に参加して 寄稿